

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会 2020 年度事業計画書

自 2020 年 9 月 1 日 至 2021 年 8 月 31 日

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会は、口腔顔面痛学に関する研究の進展及びその臨床応用についての研究発表、知識の交換、会員の生涯学習の援助並びに会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより口腔顔面痛学の進歩普及を図り、我が国の学術の発展に寄与すると共に国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする（定款第 3 条）。

これらの遂行のために、2020 年度（2020/9/1～2021/8/31）に以下の事業を実施する。

1. 学術大会の開催

第 25 回学術大会

2020 年 11 月 22 日（日）・23 日（月）の 2 日間において、第 25 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会（大会長：小見山 道）を WEB にて開催する。メインテーマは「つながる、つなげる、口腔顔面痛」で、多数のシンポジウム、リフレッシューズセミナーや一般演題発表を予定する。

2. セミナーの開催（セミナー企画運営委員会）

1) 口腔顔面痛診断実習セミナー

【会期】2020 年 12 月 13 日（日）（予定）

【会場】慶應義塾大学病院（またはWEB開催を検討）

2) 口腔顔面痛精神医学セミナー（または認知行動療法セミナー）

【会期】2021 年 1 月 24 日（日）（予定）

【会場】WEB開催検討中

3) 神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム

【会期】2021 年 3 月頃(予定)

【会場】慶應義塾大学病院大会議室（ただし、会場からの使用許可を要す）

（日本口腔外科学会,日本歯科麻酔学会,日本歯科薬物療法学会,口腔顔面神経機能学会と共催）

4) 口腔顔面痛ベーシックセミナー

【会期】2021 年 4 月～8 月頃

【会場】WEB開催

5) 口腔顔面痛脳学習キャンプ in 信州

【会期】2021 年 8 月頃 1泊2日間

【会場】松本歯科大学本館解剖実習室

3. 学会誌（学会誌編集委員会）

第13巻を2020年12月に発刊する。締め切りは2020年10月30日とする。
論文の投稿は随時受け付ける。

4. 専門資格

1) 口腔顔面痛専門医、指導医、認定医 の認定（専門医等認定委員会）

指導医、専門医、認定医更新申請、審査
研究施設の審査

2020年 11月23日（月・祝）指導医、専門医、認定医試験実施

2021年 5月～6月 指導医、専門医、認定医試験実施

2) からだ・運動器の痛み専門医療者認定試験（からだ・運動器の痛み専門医療者認定試験資格審査委員会）

からだ・運動器のいたみ専門医療者認定資格を本学会会員に広報し、受験者数の増加を図る。

News Letterでの紹介、認定制度のご案内のプレゼンのホームページへの掲載を検討する。

からだ・運動器の痛み専門医療者認定試験」の試験資格審査を行う。

受験資格を明確にする。

2021年より一般財団法人日本いたみ財団の「いたみマネージャー」「いたみコーディネーター」へ変わることに対する対応を行う。

5. 研究の奨励および表彰

1) 研究の奨励（優秀論文賞委員会）

表彰時期前年の1月から12月までに本会雑誌、日本口腔顔面痛学会雑誌に掲載された学術論文の著者の中から優秀論文賞の候補者（2名以内）を調査選考するため、優秀論文賞推薦委員会を設ける。必要な事項を審議し、推薦要旨の他必要書類を作成して理事会に提出する。優秀論文の筆頭著者に対し、本会学術大会・総会にて表彰する。

2) 優秀ポスター賞（ポスター賞推薦委員会）

第25回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会において優秀ポスター賞を選定する。

3) その他

6. 国内交流事業

1) 国内疼痛系学会との交流（理事長）

痛みに関する課題の共有と方策について協議する目的で、日本疼痛学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、日本ペインリハビリテーション学会、日本腰痛学会と設立した「日本痛み関連学会連合」を通じて、国内の疼痛団体と交流する。

2) 神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウム（セミナー企画運営委員会）。

神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウムを国内歯科系関連学会と合同で開催する。

3) その他（理事長）

本学会の目的達成のため、国・官公庁、国内外の医歯学・医療関係団体との協力、協議を行う。

7. 国際交流事業（国際交流委員会）

- 1) 国際疼痛学会 (International Association for the study of Pain: IASP) および Special Interest Group of Orofacial Pain (SIG of OFP)との交流
- 2) アメリカ口腔顔面痛学会 (American Academy of Orofacial Pain: AAOP) との交流。
- 3) アジア頭蓋下顎機能障害学会 (Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders: AAOT) との交流。
- 4) 国際歯科研究学会 (International Association for Dental Research) の神経科学グループ (Neuroscience Group) および International Network for Orofacial Pain and Related Disorders Methodology (INFORM)との交流。
- 5) その他

8. 歯科医療の向上のための事業

- 1) 診療ガイドライン（ガイドライン作成委員会）
慢性疼痛診療ガイドラインの改訂(口腔顔面痛の項)。
非歯原性歯痛の診療ガイドライン改訂
非歯原性歯痛の診療ガイドラインの GRADE 版作成
口腔顔面痛に対する運動療法の GRADE 版診療ガイドライン作成
- 2) 口腔顔面痛教育シラバス（シラバス委員会）
シラバス委員会が所管する審議事項が生じた場合、理事会の要請により委員会を招集する。
米国において Orofacial Pain が 12 番目の Dental Specialty に認定されたことから、引き続き世界の卒前・卒後教育の動向について調査研究する。
- 3) 社会保険（医療保険委員会）
令和 4 年度（2022 年度）診療報酬改定を踏まえ、以下の①②③に向けての調査、準備を行う。
① 医療関連事業の調査研究の準備、和文報告書作成
② 前年度から準備をしているデュロキセチン（商品名サインバルタカプセル）の「三叉神経ニューロパチー」への適応拡大につき、さらに準備を進める。
③ 令和 4 年度診療報酬改定に向けて、認知行動療法を始めとして保険収載候補、適用拡大候補を選定し、準備を開始する。
- 4) 医療問題関連の活動（理事長）
種々の医療問題に関する見解の取りまとめと解決を行う。
- 5) 会員の資質向上（学術委員会 e-learning 検討部会）
IASP 教育システム開発プロジェクトチームと連携し、会員のための e-learning の開発を行う。
- 6) 臨床研究（学術委員会臨床研究検討部会）
学会として以下の臨床研究を検討・実施する。
 1. 歯科診療におけるオンライン診療(Tele-dentistry)の現状と課題の研究
 2. 精密触覚機能検査と三叉神経ニューロパチーの経過と予後に関わる寄与因子の検索
 3. 慢性難治性口腔顔面痛の多面的病態評価
 4. 口腔顔面痛疾患のWEBによる臨床統計

- 7) 会員の倫理向上（倫理委員会）
倫理委員会が所管する審議事項が生じた場合、理事会の要請により委員会を招集する。
- 8) 会員の利益相反（利益相反委員会）
会員に対する利益相反の啓発活動を行う
- 9) その他

9. 広報事業（広報委員会）

- 1) ホームページの管理業務における運営体制の検討
- 2) ホームページおよびメーリングリスト、ニュースレターでの情報開示
- 3) 口腔顔面痛学会および口腔・顔面領域の疼痛疾患に関する医療の、医療関係者および国民への周知徹底のための諸施策の実施
- 4) BMS および PIDAP/PIFP の、医師・歯科医師および国民への積極的な広報。
- 5) ICOP 分類の広報
- 6) その他

10. 会議の開催（総務担当理事）

理事会 2 回、社員総会 1 回を行う。必要に応じて臨時理事会、臨時社員総会を行う。

11. 社員選挙及び理事選挙の開催（選挙管理委員会）

現行社員および理事は、2020 年度決算承認直後（2021 年 11 月頃）に任期が終わるので、新社員および新選挙理事の選出を 2021 年に行う。

12. 本学会の社会的地位向上のための活動（理事長）

13. その他

目的達成のために必要と認められる事業を行う。

以上